

わが

人口の社会増が続く「暮らしやすい」まち 〜佐久市の四つの「卓越性」〜

卓越性の分析から スタート

「自らの成長のために最も優先すべきは、卓越性の探求である」とは、オーストリアの経営学者ピーター・ドラッカーの言葉です。

これは、他者と比して何が秀でているか、自分自身の強みとは何



高原都市らしい高燥冷涼な自然環境

かを分析することが、成長への第一歩であるという教示であり、個人であつても、企業であつても、そして自治体であつても、この教示に当てはめることができるものと考えます。そこで私たちは、地方創生という難題に立ち向かおうとすると、佐久市の卓越性の分析からスタートしました。

熱帯夜のないまち

まずは気候です。

平成30年の夏は、全国で「災害」と呼ばれるほどの記録的な猛暑となりました。しかしそのような中においても、本市では観測史上「熱帯夜（日の最低気温が25度以上）」となつたことが一度もありません。昨夏に東京で39回観測されていることと比べれば、その特性がうかがえると思います。ど

んなに暑い夏の日でも夜になれば取れる涼、そして迎えるすがすがしい夏の朝は、お金で買うことのできない豊かさであり、まさに本市の卓越性です。

市内6カ所のICと 新幹線駅

続いて、高速交通網の充実。

近年、北陸新幹線、上信越自動車道、中部横断自動車道が次々に開通し、今では新幹線駅と、インターチェンジ6カ所を市内に抱える高速交通網の要衝となりました。加えての特長は、中部横断道の佐久小諸ジャンクション以南の17・4kmは無料の高速道路となっており、佐久地域の利便性の高い大動脈であると同時に、経済活動におけるポテンシャルを恒常的に持つことができました。

この高速交通網により、東京まで新幹線で最速71分、高速道路では約2時間で結ばれ、適度な田舎の良さを残しつつも都心部への通勤圏と位置付けられています。

活断層が見つかっていないまち

地震大国と呼ばれるほどに断層が多い地勢であるわが国において、本市ではいまだに活断層が一つも見つかっていません。

人は安心を求めて行動します。3・11を経験した私たちは、震災



住民の災害に備える意識も高い



多様できめ細かい子育て支援事業

また、全小学校に整備された利用料無料の児童館や、18歳までの医療費窓口無料化、第3子の保育料無料化など、子育て支援の充実が図られています。さらに特筆すべきは、不妊治療費の助成を行う「コウノトリ支援事業」です。所

前、震災後という時代認識を持ちました。本市への企業進出の進ちょく、移住のターニングポイント、東日本大震災であったと思えます。つまり、活断層が見つかっていないという事実は、震災により卓越性の価値を急上昇させたのです。

保健師がけん引する 市民に寄り添う事業

本市の子育て施策の特長は「予防的観点」にあり、保健師が母子と伴走する形で、課題が起きる前からきめ細かく指導を行うことで、子育てへの不安解消やリスク軽減を図っています。

得制限なし、年齢制限なし、指定医療機関なし、回数制限なしで、不妊治療のみならず不育治療も行い、平成28年度から今日まで105の命がこの事業により誕生するなど、それぞれの取り組みが目覚ましい効果を上げています。この事業は、現場を凝視している保健師によりけん引されています。

本市の卓越性

これら四つの卓越性から導き出されるもの、それは「暮らしやすさ」であり、これこそが本市の大きな魅力で、最大の卓越性であると考えます。

これらの卓越性は、人が暮らす上でも、仕事を続ける上でも優れた特長であり、神様がもたらしてくれた自然環境と、先人たちの時代から脈々と築き、磨き上げてきた努力のたまものです。

この「暮らしやすさ」により、本市では平成23年以來、人口の社会増が継続しています。

「HYGGE」という価値

イギリスの歴史ある英語辞典であるコリンズ英語辞典による「2016最も話題になった単語

トップ10」に、「HYGGE（ヒュッゲ）」という言葉が選ばれました。HYGGEとは、デンマーク人の持つ注目すべき価値観で、「ほっとくつろげる心地よい時間、またはそんな時間をつくり出すことによって自然と生まれる幸福感や充実感。そして暮らしを楽しむ姿勢」の意を持ちます。

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」が求められるようになって久しい中で、私はHYGGEこそが求める姿なのだろうと考えています。そして本市には、HYGGEを満たしていく、いくつもの要素が存在しています。HYGGEという価値を十分に認識し、追い求め、まちづくりにも励んでいく考えです。

プロフィール

- ◆ 面積 423・51km²
- ◆ 人口 9万9131人
- ◆ 世帯数 4万1522世帯

- 〔将来都市像〕「快適健康都市 佐久」
- 〔まちの特徴〕豊かな自然・文化と都市機能が調和した快適な生活環境や、市民の健康長寿といった魅力が共立する、健やかに暮らせるまち
- 〔市町村合併〕平成17年4月1日 佐久市・臼田町・浅科村・望月町の新設合併

- 〔特産品〕佐久鯉（天皇家にも献上した健康長寿食）、五郎兵衛米（市場に



佐久市長
柳田清二



- 出回らない幻の米）、安養寺らーめん（信州味噌発祥地のご当地ラーメン）、地酒（市内に11もの酒蔵）
- 〔観光〕龍岡城五稜郭、新海三社神社、びんころ地蔵、佐久スキーガーデン「バラダ」、佐久市子ども未来館、うすだスタードーム
- 〔イベント〕佐久バルーンフェスティバル、佐久鯉まつり、SAKU BLOOMイルミネーション、跡部の踊り念仏、湯原神社の式三番

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住みたい、住み続けたいまちを 目指して

都市機能の利便性と豊かな 緑に恵まれた住環境

「白岡美人」の愛称で親しまれている梨が特産のまち。白岡市は、東京都心まで40km圏内、埼玉県東部に位置し、武蔵野の静かな面影を残す緑に恵まれた美しいまちです。

近年、多くの自治体で人口減少



「白岡美人」の愛称で呼び親しまれている特産品の梨は甘くてジューシー

が進展する中、本市はわずかではあります。人口の増加が続いており、平成24年10月1日には単独で市制を施行しました。

子育て世代に人気が高く、その理由の一つに交通利便性の良さが挙げられます。都心まで約40分で結ぶJR宇都宮線が南北に走り、通勤、通学や買い物、行楽の足となっています。また、この利便性の良さから白岡駅、新白岡駅の周辺では、住宅地としての開発が進み、東京のベッドタウンとして発展してきました。

また、市内には首都圏中央連絡自動車道の白岡菖蒲ICがあり、利便性の高い交通ネットワークが形成されています。IC付近に整備された白岡西部産業団地には企業が進出し、職住近接のまちづくりが進んでいます。

心健やかに暮らせるまち

市では「次代を担う子どもたちの夢や希望を応援するまち」を目指し、「白岡こども・ゆめ・みらいプロジェクト」を始動しました。

日本サッカー協会と連携して行う「夢の教室」は、市内の小学5年生を対象に、夢をかなえたアスリートを「夢先生」として迎え、授業を通じて子どもたちに夢を持つことの大切さを伝えていきます。また、「市内企業見学会」では、小学4～6年生の親子が参加して市内の優良企業を見学し、身近にある企業への理解を深めています。このほか、市内の小中高生が参加する「白岡こども会議」なども開催しています。市では、普通の学校の授業では得ることのできない貴重な体験や学びの場を提供

することで、生きる力や豊かな感受性を養い、自らの可能性を發揮できる子どもたちの育成を目指しています。

また、子どもたちだけでなく、シニア世代を対象とした取り組みも実施しています。おおむね60歳以上の高齢者の地域活動や市民活動、健康・生きがいづくり、就業などの社会参加を支援するため、平成30年度からアクティブシニア活躍支援事業を立ち上げました。知識と経験を有するシニア世代が地



東京のベッドタウンとして開発が進んだ新白岡駅周辺の住宅地



特産品の梨のたなをイメージしたデザインの生涯学習センター「こもれびの森」

域社会を共に支える担い手として、さまざまな活動分野で活躍していただくことにより、「元気なシニアで元気な地域づくり」を目指す取り組みを実施していきます。

こうした中、多くの市民が長年待ち望んでいた図書館機能、資料館機能、生涯学習拠点機能を持つ生涯学習センター「こもれびの森」が平成30年10月1日に開館しました。この生涯学習センターは、すべての人たちが生涯を通じて楽しく学び、憩い、交流することができる生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点を基本コンセプトとして建設したものです。開館以来、市内外を問わず多くの方にご利用いただき、開館から5カ月足らずで入館者が10万人を超えました。

活気あふれるまち

中心市街地から離れた東西の地

域においては、人口減少、高齢化などが大きな課題となっており、そのため、慶應義塾大学SFC研究所飯盛研究室との連携・協力により「白岡元気プロジェクト」を推進しています。

このプロジェクトでは、同大学の学生と地域住民が協力し、子どもたちの地域に対する愛着を醸成するイベントの開催や地域の多世代の人々が食事などを楽しみながら交流することができる「場」の提供などを実施しています。

また、地域の農家で使わなくなったリヤカーを活用し、地域の農産物PR販売を行うとともに、地域住民が交流し会話が生まれる取り組みを行っています。

このプロジェクトは、地域の交流を活発化させ、地域住民同士のネットワークの強化を図ることに、より、地域において、市民が主体となった活動が次々に生み出される環境をつくることを目的としたものです。

このように、市民による主体的な活動が定着することにより、将来にわたり活力ある地域社会を維持していくことができるものと考えています。

また、市では未来に向けて次の段階にステップアップするため、「まちのにぎわい創出プロジェクト」として、発展の余地を残す駅前周辺地域や幹線道路沿いの新たな土地利用を推進しています。

市民に愛されるまちへ向けて

私は、その時代に合った「天の時」をとらえ、アクセスの良さである「地の利」を生かし、「人の和」に

プロフィール

- ◆ 面積 24・92 km²
- ◆ 人口 5万2456人
- ◆ 世帯数 2万1414世帯

〔将来都市像〕ほっとスマイル しらおか 未来へつながるまち うるおいとやすらぎの生活未来都市

〔まちの特徴〕心地よい自然、交通便利性の高い環境、安心して暮らせる街、歴史的文化的な遺産など、趣きのあるまち



白岡市長
小島 卓



〔特産品〕梨、トマト、米、ねぎ、梨を材料としたお菓子とリキュール
〔観光〕柴山伏越、古代蓮、柴山沼
〔イベント〕白岡新春マラソン大会、白岡まつり、白岡ふるさとまつり、小久喜ささら獅子舞、篠津の天王様

よるまちづくりを進めてきました。大変ありがたいことに、これまでの取り組みの成果が評価され、東洋経済新報社が発行している「住みよさランキング」において、市制を施行して以来、毎年、埼玉県内で上位の位置付けをいただいています。

今後も、住みたい、住み続けたいまちとなるように、将来を見据えたまちづくりに全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

大東市（大阪府）

大東市長 **東坂浩一**
ひがしざかこういち

わが

あふれる笑顔 日本一幸せを 実感できるまちを めざして

付加価値の高い暮らし 「大東スタイル」

大東市は、鉄道や幹線道路などの交通網によって、隣接市である大阪市をはじめ、京都や奈良方面ともつながる、非常に利便性の高いまちです。また、コンパクトな市域に、産業や教育機関、自然、歴史など、数多くの魅力が詰まった機能性の高いまちでもあります。

このような恵まれた立地と右肩



武将姿で勇ましく行進する、三好長慶公武者行列

だいたい

幸せのまち大東づくり

上がりの経済成長を背景に、本市はベッドタウンとして、市制施行以来、順調に人口を増加させてきました。しかし、人口減少・少子高齢化の波は徐々に押し寄せ、平成10年をピークに減少傾向へと転じます。そこで本市は、将来に向かって人口バランスを保ち、発展し続けるため、いち早く人口流入に向けて、さまざまな対策に乗り出してきました。その取り組みが、大東でしか体験できない付加価値の高い暮らし方、「大東スタイル」の実現です。

その中の一つに「コンパクトシティの推進」があります。市内にあるJR3駅を中心に、日常生活に必要な機能が徒歩や自転車で行ける範囲にそろって「歩いて暮らせるまちづくり」を進め、いつまでも安心、快適、便利に暮らせるま

ちを目指しています。

また、ものづくり産業が集積している強みを生かし、活力にあふれた地域経済を構築するために、大東ビジネス創造センター（D・Biz）を立ち上げました。市内企業の強みを伸ばし、弱みを克服するコンサルティングや販路拡大・創業支援など、さまざまなサポートを行うことにより、市内産業の活性化を図っています。

歴史と文化が息づく大東市

本市は、豊かな自然や歴史・文化を有していることも魅力の一つとなっています。戦国時代に織田信長に先駆けて近畿一円を統一し、天下人として名をとどろかせた三好長慶の居城であった飯盛城は、平成29年に「続日本100名城」として選定されました。平成

30年には、大規模な石垣が新たに発見され、歴史ロマンはさらなる広がりを見せているところです。

毎年3月には「三好長慶公武者行列in大東」を開催しており、市内を練り歩く甲冑姿の大行列を楽しむことができます。

また、毎年秋に五穀豊穡を願って市内各地で行われる「だんじりまつり」は、伝統文化として、現在も大切に引き継がれています。荘厳で勇壮な曳行は、まさに圧巻。見事な彫物や飾幕で飾られただんじりが曳行される姿は、訪れた人を魅了する秋の風物詩となっています。

「子育てするなら、 大都市よりも大東市。」

「大東スタイル」を実現するためには、子育て支援の充実も欠かせません。本市では、「子育てするなら、大都市よりも大東市。」をキャッチフレーズに、安心・安全・快適に子どもを産み育てられるまちづくりを進めています。

中でも、小学1年生の全家庭を訪問する家庭教育支援は、大東モデルとして全国からも注目を浴びています。

平成30年8月からは、子育て世帯包括支援センター「ネウボランドだいつう」を開設し、妊娠から出産、子育て、教育に至る切れ目のない支援を行う「大東市版ネウボラ」を始めました。家庭教育支援との連携強化を図ることで、さらなる安心の子育て支援を充実させていきます。

市民や民間が主役の大東市

そして、今後のまちづくりにお



威勢のよい声が響き渡る、だんじりまつり

いて重要な要素の一つとなるのが、先を見据えた施策の展開です。人口減少・少子高齢化が加速度的に進む中、従来の考えや体制のままでは、行政運営が立ち行かなくなる予測されます。そこで、新しい時代に向けた取り組みとして進めてきたのが、民間の力を活用し、新たな価値を創造する「公民連携」です。

本市では、全国初の公民連携に関する条例を制定し、リードプロジェクトとして、市営住宅の建て替えと、公園や道路などのインフラ施設などを一体的に開発する事業や、学校の跡地を活用する事業を進めています。

また、毎月、J.R住道駅前で開催している「大東ズンチャツチャ夜市」は、駅前エリアの活性化と併せて本市の魅力を広く市外に発信する公民連携の取り組みとして、毎回多くの方に心豊かなひとときを過ごしていただいています。

さらに、「公民連携」と併せて重要となるのが、「住民自治」です。社会情勢が大きく変わり、市民のニーズも多様化する中で、行政がフルスペックで行政サービスを提供することは、難しくなってきた

います。そのため、自分たちのまちを自分たち市民の手でつくるまちづくりとして、本市は「全世代地域市民会議」を創設しました。市民と職員がまちづくりについて共に話し合い、共にまちをつくり上げていくことで、地域の活性化を図っています。

今後も、民間や市民と共にまちの未来を創造し、次代に引き継げる笑顔あふれる大東市を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 18・27km²
- ◆ 人口 12万759人
- ◆ 世帯数 5万6341世帯

〔将来都市像〕あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり

〔まちの特徴〕都市部に近い立地でありながら、飯盛山をはじめとする豊かな自然や御領水路などの歴史文化の息づくまち



大東市長
東坂浩一



- 〔特産品〕家庭電化製品、産業機械、義肢装具、パチンコ玉
- 〔観光〕飯盛城址、飯盛山ハイキング道、野崎観音、御領水路、深北緑地
- 〔イベント〕野崎まいり、大東市スマイルミネーション、大東ズンチャツチャ夜市、三好長慶公武者行列in大東、だんじりまつり



田舟乗船体験ができる御領せせらぎ水路

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

まち・ひと ともに育ち輝く伊予市 〜彩り美しい景色あふれる食と健康の都〜

新伊予市の誕生と これまでの取り組み

平成17年4月1日、1市2町の合併により産声を上げた伊予市は、愛媛県のほぼ中央に位置し、青き伊予灘の恩恵とともに、都市型文化を持つ「伊予地域」(旧伊予市)、緑深き栗林に代表される豊



伊予市ブランドにも認定された特産農産物

かな里山文化を持つ「中山地域」(旧伊予郡中山町)、海に沈むあかね色の夕日という観光資源を持つ「双海地域」(旧伊予郡双海町)で構成される歴史と文化に育まれた自然豊かなまちです。

平成27年までの10年間は、「ひと・まち・自然が出会う郷(くに)」を将来像に、各地域の一体感の醸成を図りながら、本市が持つ個性・特色を生かしたまちづくりに取り組み、緩やかに発展を遂げてきました。

平成28年以降は新たな将来像である「まち・ひと ともに育ち輝く伊予市」の下、「第2次総合計画」や「伊予市版総合戦略」、また、「まつやま圏域未来共創ビジョン」など重要計画に掲げる各種事業を実行に移しています。

本市特産品の差別化、高付加価

値化に向けた「ますます伊予市認定ブランド」(ますます、いよし。ブランド)の創設、同じく本市特産品の販路拡大を目指した都市部での商談会の開催、子ども総合センター・保育所・認定こども園・

放課後児童クラブなどの相互連携による充実した子育て支援の実

践、交通空白地域の解消を目的とした「伊予市コミュニティバスあ

いくる」の運行、市民の健康づくりに対する意識の向上を見据えた

健康ポイント制度の導入など、さまざまな分野で始まった新たな取

り組みは、市民生活に着実かつ効果的な変化をもたらしています。

魅力ある観光スポットと個性豊かなイベント

一度は降りてみたい駅とし

て注目される「JR下灘駅」、恋

映画やドラマのロケ地としても有名な下灘駅



映画やドラマのロケ地としても有名な下灘駅



翠小学校児童と移住者の皆さん

ながら自然いっぱいの中山町を楽しめる「なかやま栗まつり」など年間を通して個性豊かなイベントが開催されています。

住民が主役となった 移住・定住の推進

本市においても、急速に進行する人口減少・人口流出は、自治会活動、地場産業、伝統芸能などの維持・存続にもかかわる極めて重要な課題であり、数々の対策を計画的かつ一体的に進めています。中でも移住・定住の推進は、効果的で即効性のある方策との認識が

ら、移住サポートセンター「いよりん」を中心に、行政・受け入れ団体・地域おこし協力隊などが持つ知識や情報を最大限に活用しながら、精力的に取り組んでいます。住民自らが共に暮らす仲間を受け入れる、「住民が主役」の実施手法は、伊予市独自のスタイルとして各方面から高い評価をいただいています。

「住み続けたい」「住んでみたい」伊予市の創造

平成26年から整備を進めてきた「中山スマートインターチェンジ」も2020年3月には供用が開始される予定で、平成30年に改修が完了した「道の駅なかやま」との相乗効果により中山地域の振興が図られるとともに、同地域の利便性・安全性の飛躍的な向上が期待されています。

また、平成25年3月に閉校した県立中山高等学校跡地は中山地域の将来に渡る持続的発展を目的とした「教育・文化・防災・交流拠点施設」として活用準備を進めています。

一方、平成29年に実施された「愛顔(えがお)つなぐえひめ国体・

えひめ大会」においては、本市でもビーチバレーやホッケーなど数多くの競技が開催されました。ここで得られた経験や財産が、これからの「まちづくり」の原動力となるよう、次の世代に、着実かつ的確に引き継ぐとともに市民が主体的にスポーツ活動に取り組める環境の整備にも努めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 194.44km²
- ◆ 人口 3万7228人
- ◆ 世帯数 1万6037世帯

〔将来都市像〕 まち・ひと ともに育ち輝く伊予市

〔まちの特徴〕 都市型文化を持つ伊予地域、豊かな里山文化を持つ中山地域、観光資源を持つ双海地域が合併して誕生した自然豊かなまち

〔市町村合併〕 平成17年4月1日、伊予市、中山町、双海町が合併

〔特産品〕 ビワ、キウイフルーツ、柑



伊予市長
武智邦典



橘類、栗、椎茸、削り節、ちりめん、じゃこ天、鱧、鯛、ナス、レタス

〔観光〕 五色姫海浜公園、しおさい公園、栗の里公園、秦皇山森林公園、道の駅なかやま、道の駅ふたみ、JR下灘駅

〔イベント〕 五色姫復活祭、伊予彩まつり、伊予市トライアスロン大会、ふたみ、しもなだ鱧まつり、なかやま栗まつり

平成30年住民基本台帳の人口移動報告によると本市は地方の小規模自治体にとっては異例の転入者増となりました。これは今までの取り組みが一定の評価を受けた結果であり、今後も、市民や企業、各種団体とも手を携えながら、「住み続けたい」「住んでみたい」と思える伊予市の創造に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。